

日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所
162-0805 東京都新宿区矢来町 65
電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175
発行者 総主事 司祭 矢萩新一

「続・エキュメニカルつながりの中で」

管区事務所総主事 司祭 エッセイ 矢萩新一

WCC (世界教会協議会) は、およそ110カ国・350教団が加盟する世界最大の超教派の共同体で、日本の中では、日本基督教団・日本聖公会・在日大韓基督教会・NCC (日本キリスト教協議会) が加盟しています。WCCでは、毎年地域と課題を絞って「正義と平和の巡礼」が行なわれています。今年にはアジアがその対象となり人種差別 (レイシズム) というテーマで、大阪で青年のプログラム、東京でフィールドワークと神学者会議が先日行なわれました。会議や情報交換だけではなく、実際に現場を訪れ、出会いと学びの中から課題を捉えていく姿勢は、どの地域の教会においても、正義と平和を求めるキリスト者として大切にしなければならない姿勢です。残念ながら日本には、「在日・滞日外国人、沖縄、アイヌ、部落、マイノリティ」への差別という形で、人種差別が起こっています。歴史をしっかりと学び、一人ひとりの命を大切に寄り添う気持ちが、差別をなくす最も有効な手段だと思います。

東京での会議の後、WCCの副総幹事と加盟教派の総主事たちが懇談し、それぞれの教派が抱える課題を分かち合い、教派間の協働や、ことに平和の課題に関して宗派を超えた協働ができる日本の宗教者の交わりは、世界的にも珍しいと関心が寄せられました。神さまと人々、世界と教会に仕える私たちの使命を常に覚えながら、違いを指摘し合うのではなく、どこで手をつなげるのかということを探し続けていくのが、エキュメニカルな共同体です。

日本聖公会のエキュメニカルなつながりは、WCCの他にも、CCA (アジアキリスト教協議会)、NCC、日本キリスト教連合会、カトリックや日本福音ルーテル教会とのエキュメニズム委員会、キリスト者平和ネット、世界祈祷日や一致祈祷日の礼拝などがありますし、宗派を超えたつながりには、日本宗教連盟や全国教誨師連盟、WCRP (世界宗教者平和会議) 日本委員会、宗教者平和ネットなど、私たちはたくさんのチャンネルを持っています。それぞれの教会の地域の中でも普段から交わりを深めている様々なつながりがあると思います。教会が置かれた地域における大切なパートナー

□会議・プログラム等予定

(2019年9月25日以降
および7月25日以降未掲載分)

- 8月
28日(水) 正義と平和・原発問題プロジェクト会議 [管区事務所]
- 9月
2日(月) 主教会タスクフォース会議 [管区事務所]
3日(火) 礼拝委員会 [管区事務所]
17日(火) 教礼組・組織部会議 [管区事務所]
26日(木) 文書保管委員会 [管区事務所]
26日(木) 主事会議 [管区事務所]
- 10月
3日(木) 正義と平和・憲法プロジェクト会議 [中部教区センター]
4日(金) 墓地清掃・墓参の祈り [青山墓地]
8日(火) 常議員会 [管区事務所]
10日(木) 聖公会 / ルーテル教会協議会実務会議 [管区事務所]
15日(火) 正義と平和・原発問題プロジェクト会議 [管区事務所]
15日(火) ~ 17日(木) 定期主教会 [富山]
18日(金) 収益事業委員会 [管区事務所]
22日(火) 聖職試験委員会 [管区事務所]
28日(月) 教役者遺児・建築金融資金運営委員会 [管区事務所]
29日(火) 正義と平和・ジェンダープロジェクト会議 [管区事務所]
30日(水) 正義と平和委員会 [管区事務所]
30日(水) 正義と平和・公開学習会 [バルナバホール]
30日(水) 青年委員会 [管区事務所]
31日(木) 日韓協働委員会 [管区事務所]
31日(木) 法憲法規委員会 [管区事務所]

(次頁へ続く)

↑ 10月4日(金) は青山墓地清掃および墓参の祈りの為、管区事務所はお休みとなります。

だという意識を持ち、協力し合えることがあれば、より良い宣教・(前頁より)
牧会につながるのではないのでしょうか。

「太陽の輝き、月の輝き、星の輝きと、それぞれ違いますし、
星と星との間にも、輝きに違いがあります。」

(Iコリント15:41、聖書協会共同訳)



□常議員会

第64(定期)総会期第6回 2019年7月17日(水)

＜主な決議事項＞

- ① 「日本聖公会沖縄教区」基本財産譲受に関して(日本聖公会ナザレ修女会沖縄支部聖ジョージ修道院の土地・建物の譲受)、承認した。
- ② 「日本聖公会横浜教区」規則一部変更に関して(浜松聖アンデレ教会境内地における収益事業を追加)、承認した。
- ③ 建築金融資金の規程に関して、「日本聖公会建築金融資金規程」の融資の条件に「原則として」と追記することを、年金委員会より次期総会に諮ることを確認した。
- ④ 「大斎克己献金の応援対象となる国内伝道強化プロジェクト選定基準及び手続き」に関して、「〈報告について〉計画の進捗状況や結果について、教区会や総会において書面にて報告すること。」の追記を承認した。
- ⑤ 日韓協働委員より推薦を受け、上原成和執事(沖縄)が委員に加わることに、承認した。
- ⑥ 郡山セントポール幼稚園の汚染土の除去にともなう人工芝撤去、設置工事に関して、「原発と放射能に関する特別問題プロジェクト資金」からの支出を承認した。

次回以降の会議:10月8日(火)、12月10日(火)

□各教区

北関東

- ・ 聖職按手式 2019年9月18日(聖霊降臨後第14水曜日/秋期聖職按手節)11時～ 高崎聖オーガスチン教会 説教:司祭 パウロ

11月

- 14日(木) 財政主査会〔管区事務所〕
- 18日(月) 主事会議〔管区事務所〕
- 29日(金)～30日(土) 礼拝及び礼拝音楽担当者会〔横浜〕

＜関係諸団体会議・他＞

- 8月30日(金) ACTジャパンフォーラム設立準備会〔早稲田〕
- 9月30日(月) 日キ連常任委員会・定例講演会〔早稲田〕
- 10月2日(水) NCC 役員会〔早稲田〕
- 2日(水)～7日(月) CCEA 総会〔西マレーシア〕
- 7日(月) キリスト者平和ネット運営委員会〔富阪〕
- 9日(水) NCC 役員会・常議員会〔早稲田〕
- 9日(水) 和解と平和のための日韓協働祈禱会〔柏木教会〕
- 11日(金) ACTジャパンフォーラム運営委員会〔早稲田〕
- 11日(金)～13日(日) GFS 全国研修会〔鹿児島〕
- 13日(日) 英国アン女王来日〔横浜山手聖公会〕
- 23日(水)～25日(金) 日本キリスト教連合法人事務局・会計実務研修会〔箱根〕
- 24日(木)～26日(土) 聖公会社会福祉連盟第60回大会〔京都〕
- 11月21日(木)～27日(水) CCA 女性会議〔台湾〕

佐々木道人 式典長:司祭 ダビデ齋藤 徹
司祭按手志願者:執事 マルコ福田弘二

中部

- ・ 第91(定期)教区会 11月3日(日)18時～
11月4日(月・休)16時 主教座聖堂名古屋
聖マタイ教会 会期中、次期教区主教選挙
実施。

京都

- ・ 第114(定期)教区会 11月23日(土・祝)
9時～17時 京都教区主教座聖堂・教区セ
ンター会議室

大阪・京都

- ・ 大阪教区・京都教区合同礼拝 ともに祈る
2019 聖餐式 ～イエスのまなざし～ 10月
26日(土)10時半～ 聖アグネス教会(京
都) 司式:高地 敬主教(京都)、磯 晴久主
教(大阪) 説教:佐々木道人司祭(東京)

大阪

- ・ 聖職接手式 2019年10月5日(土) 13半～大阪聖愛教会 司式:主教 アンデレ磯 晴久、説教:司祭 ヨハネ黒田 裕(京都教区・ウイリアムス神学館館長) 式典長:司祭 ジョイ千松清美 司祭接手志願者:執事 ペテロ 金山将司、執事接手志願者:聖職候補生 ヒューム ウイリアム ユーワン

神戸

- ・ 第89(定期) 教区会 11月23日(土・祝) 9時～17時 神戸聖ミカエル大聖堂(神戸教区主教座聖堂)

□神学校

- ・ 聖公会神学院
2019 体験入学 10月2日(水)～4日(金)
*3日(木) だけの一参加可 定員:男性4名・女性2名 (宿泊は申し込み順) 費用:全日程 12,000円/3日(木) のみ参加 6,000円 問い合わせ:聖公会神学院事務局電話:03-3701-0575
- ・ ウイリアムス神学館
2019 年度体験入学 10月8日(火)～10日(木) 対象:満18歳(高卒)以上の方 定

員:5名(申し込み順) 費用:16,000円(食費・宿泊費含む) 問い合わせ:ウイリアムス神学館 電話:075-431-5406

□関係諸団体**・日本聖公会社会福祉連盟**

第60回京都大会・研修会 10月24日(木)～26日(土) 京都教区センター、聖アグネス教会ほか テーマ:「ウイリアムス主教の働きに学ぶ」

†逝去者 霊魂のパラダイスにおける光明と平安を祈ります。

主教 パウロ仲村実明(沖縄・退職) 2019年8月10日(土) (91歳)

司祭 テモテ小笠原 忍(東京・退職) 2019年9月19日(木) (87歳)

📖 管区・出版物案内**・『2020年度 教会暦・日課表』**

2019年10月1日発行 頒価300円(税込)

お求めは聖公会書店Tel 04-2900-2771 またはお近くのキリスト教書店にお願いいたします。

《人事》**北関東**

執事 マルコ福田弘二 2019年9月18日 公会の司祭に接手される。

中部

司祭 ダビデ市原信太郎 2019年4月1日付 東京教区への出向延長を命じる。(期間は、次期日本聖公会定期総会終了までとする。)

京都

主教 ステパノ高地 敬 2019年8月4日付 司祭マタイ出口創が休職中、彦根聖愛教会および敦賀基督教会の管理を委嘱する。

司祭 マタイ出口 創 2019年9月4日付 休職期間を延長し、9月30日までとする。

<信徒奉事者認可>
(奈良基督教会) 2019年9月9日付(任期1年)
ダビデ 松本 誠、サムエル藤井和人

《教会・施設》

聖モニカ礼拝堂(神戸) 2019年7月6日 礼拝堂聖別式

〈特集〉2019・広島 / 長崎「平和への祈り」

「広島平和礼拝 2019」

神戸教区 執事 バルナバ 永野拓也(広島平和礼拝実行委員)



切にされていたことは「祈り」です。カトリック教会との「合同プログラム」や、「平和祈願ミサ」・「聖餐式」の中でも、原子爆弾や戦争によって亡くなった方、今も苦しみや悲しみの中にある方々を覚えて祈る機会がありました。「広島平和礼拝」の参加者は、全国各地から集まっています。そして、世代も様々です。それでも、「祈り」を通して、「ヒロシマ」の出来事を心に刻み、同じ思いを分かち合うことができましたような気がします。

「祈り」を中心とした「平和礼拝」

広島での原爆投下から74年を覚えて、今年も8月5日、6日に「広島平和礼拝」を行うことができました。今年は、「わたしから学んだこと、受けたこと、わたしについて聞いたこと、見たことを実行しなさい。そうすれば、平和の神はあなたがたと共におられます。」というフィリピの信徒への手紙4章9節が主題聖句でした。

プログラムは5日にカトリック教会との合同の「祈りのつどい」から始まり、その後「平和行進」とカトリック世界平和記念聖堂で「平和祈願ミサ」が行なわれました。6日は早朝から、平和公園で「原爆死没者慰霊行事」が行なわれました。その後、広島復活教会で、「広島原爆逝去者記念聖餐式」が捧げられました。そして、杉山武郎さんの被爆証言を聞き、午後からは希望者が二つのコース(平和公園コース、大本営跡地映像コース)に分かれて、碑巡りを行ないました。

この2日間の「広島平和礼拝」の中で、大

「身近な所から平和を実現する」

8月6日に行なわれた「広島原爆逝去者記念聖餐式」には、約160名の出席者が与えられました。この聖餐式の説教者は、吉田雅人東北教区主教でした。吉田主教は、広島で牧会されていた時代に、原爆で家族を失った



△被爆証言▽

方達が、涙ながらにその体験を語ってくださったこと。その時、原爆の出来事が身近になったことを語られました。一方で、東北教区の主教に着座された後、未だに放射線量が高い地域を通った時の衝撃を話してくださいました。東日本大震災や、福島第二原発の事故は「今」も進行中の出来事なのです。しかし、たった数年にも拘らず、私たちは確実に無頓着になっていってしまいます。吉田主教の説教を聞きながら、ふと西ドイツのヴァイツゼッカー大統領の演説を思い出しました。ドイツの敗戦40年を迎えた1985年5月8日に行なわれた「荒れ野の40年」と題された演説です。その演説の冒頭で、大統領は「5月8日は心に刻むための日であります。心に刻むというのは、ある出来事が自らの内面の一部となるよう、これを信誠かつ純粋に思い浮かべることです。そのためには、真実を求めることが大いに必要とされます(岩波書店 2016:6)。」と述べるのです。

「戦争」や「原爆」の出来事。私は日常生活の中で無頓着になっている自分に気づきます。そのような私には、「真実を求め続ける」姿勢が必要なのではないかと感じました。したがって、今回杉山武郎さんの被爆証言を聞く時間を持てたことは、重要な時間でした。杉山さんは、原爆で妹を失ったこと。それまで暮らしていた広島市の街が、一瞬でなくなってしまったことを写真を織り交ぜながら語って下さいました。まさに、目の前で「原爆」の真実を知る人の語りを聞いたのです。私は、「原爆」の出来事を思い浮かべるとき、杉山さんの語りを思い浮かべたいと思います。特に印象に残っていることは、杉山さんが「平和」について語られたことです。杉山さんは「平和とは、身近な人との間で実現していくものだと思う。」と語られたのです。戦争をなくすこと。核兵器をなくすこと。もちろん、大切なことです。

しかし、現実の世界を見た時、私たちのできることはもっと身近にあるのではないかと仰っていました。「それは、家族や友人との間で、平和を創り出していくことです。」原爆で家族を失い、自らも戦争で苦しんだ杉山さんの一言には、とても重みがありました。

原爆の「真実」を知る機会を逃さない

広島に遣わされて、2年目になりました。私が住んでいる呉信愛教会には、防空壕の跡があります。広島では、ふとした瞬間に被爆の体験を語ってくださる方々がいます。戦争や原爆の「真実」を知る機会を逃さないようにしたいと思います。「わたしから学んだこと、受けたこと、わたしについて聞いたこと、見たことを実行しなさい。そうすれば、平和の神はあなたがたと共におられます。」というイエス様の御言葉を噛み締めながら過ごした2日間でした。

*リヒャルト・フォン・ヴァイツゼッカー
永井清彦訳『新版 荒れ野の40年—ヴァイツゼッカー大統領ドイツ終戦40周年記念講演 岩波ブックレット767』6頁。(岩波書店、2016年)

(写真提供：長田津子姉弘司祭)

管区事務所編集

11月に発行いたします!

聖公会手帳 2020

- ・日記と年鑑を兼ねた便利性を徹底!
- ・教会暦・日課表の最新資料を収録!
- ・紙質を軽量化して使いやすさを追求!

○大型判 2,200円 / 通常判 1,200円(税込)

申し込みは聖公会書店(Tel. 04-2900-2771)、
またはお近くの書店まで。

被爆74年長崎原爆記念礼拝

—死の同心円から平和の同心円へ—

黙祷のうちに原爆投下時刻を待つ

8月9日は、広島に次いで長崎に原子爆弾が落とされた日です。今年で、被爆74年を迎えました。今年も沖縄教区、神戸教区、東京教区、大阪教区から主教様方々が足を運んで下さいました。九州教区以外からも多くの信徒の方や司祭様、司祭様ご家族など、教区内からの兄弟姉妹をあわせ、総勢約80名の方が今日の長崎原爆記念礼拝のために、足を運んで下さいました。

九州教区の武藤主教様の司式で礼拝が始まりました。

午前11時2分の原爆投下時刻を黙祷して待ちます。礼拝中の窓を開け、その時を待ちます。蒸し暑い外の空気、蟬の鳴き声、車の走る音、生活の音が聞こえます。



長崎聖三一教会信徒 古瀬ひとみ

その時を知らせる音が聞こえてきました。サイレンが鳴り、港の船の汽笛が鳴り74年前のその瞬間を蘇らせるかのように鳴り響きます。

そして磯晴久主教様(大阪教区)の説教、特別な代祷、と礼拝が続いて行きます。

昼食は、定番の長崎皿うどんです。それから、甘いスイカです。皆さん、もりもりと食べて下さいます。「これを楽しみにしているんですよ。」と言われる方も。

決して広い部屋での食事ではありませんが、楽しい食事の雰囲気が出てくるのです。

被爆者・八木道子氏の証言

午後からは、被爆者の方の証言です。今回は、八木道子氏をお招きしました。八木道子氏は、長崎生まれ長崎育ち長崎在住で、80歳です。小学校一年生の時、爆心地より3.3km離れた鳴滝町の自宅で被爆なさいました。証言の内容を抜粋していきたくと思います。

冒頭、八木さんは、こう言われました。

戦争は人間が起こすものです。戦争のもつ残酷さと悲惨さを原点として、人間が人間らしく生きていくことができる、確かな平和を造りあげるにはどうしたらいいのか。何故74年前のことを学習するのか。皆さんと考えたいと思います。と・・・。

戦争中は「ぜいたくは敵だ。」着物を着たり、パーマをかけたりすることもできません。家にある鉄鍋や鉄の釜、仏壇の鐘までも鉄砲の玉や兵器に加工するために供出させられました。

8月9日11時2分。八木さんは(当時小学生一年)。兄、姉、弟の子どもだけ5人で、家に居ました。空襲警報は、解除になっていました。飛行機が一機フラフラとあまり音もなく飛んできたのです。2階の縁側からその飛行機の

ゆくえを見ているとピカッといなびかりのような、目を突き刺すような強い光がしました。ピカッとした強い光と同時にドンと体が持ち上げられるような大きな音を感じました。

恐る恐る頭を上げ家の中を見わたせば、家の物が倒れて同じ方向に飛ばされています。縁側にあったかぼちゃが、奥の部屋に飛ばされています。外に出てみると割れたガラスの破片がいっぱいです。まるで、家が裸になってしまった感じでした。

松山町、500メートル上空で炸裂した一発の原子爆弾で、長崎の町の大半は一瞬の間に破壊されて、なくなってしまったのです。たった今まで、うるさいほど鳴っていた蟬の声も学校も町も、そこに生活していた多くの人たちも、生命あるすべてのものが、まばたきするほどのわずかな間に、形を変え、色を変え、姿を変えてしまったのです。原子爆弾が炸裂した時の爆風は、秒速瞬間400～440メートル。一秒間に400メートルです。台風の約10倍近くの風が吹いたのです。原子爆弾が炸裂した時の温度は5千度とも1万度とも言われます。爆心地の近くに居た人は一瞬の間に骨まで焼けてしまいました。炭化してしまったのです。

八木さんが勤めた城山小学校は、爆心地から500メートル。爆心地が一番近い小学校です。子どもたち1,400名ほどが原爆で死んでしまったのです。先生や用務員さんも30名亡くされました。生き残った先生は3名。生き残った子どもは43名でした。

平和は、決して向こうからやってはきません。平和を築き、平和を守っていくにはこの戦争を引き起こそうとする力の何倍もの力が必要です。

平和を守っていくという私たち一人ひとりの決意が、戦争に引きずられない力となります。自分たち子どもには、なにもできない。何をしてもいいのかわからない。ではありません。0は幾つ集まっても0です。0.1が10集まると1です。無力と威力は大きく違います。生きるもの全てを抹殺する「核」の恐ろしさを知り、平和への発信を次世代を担う若いあなた方からどんどんして下さい。世界中の人々が生まれてきて良かったと思える地球、時代にしましょう。

熱く語られた証言でした。平和は築いてゆくもの。今ある平和を守っていくように努めないといけない。と心に響きました。そして核兵器の恐ろしさを知ること。

戦後生まれの私たちが「平和」と「核兵器」と向き合い、考え、行動していくことの大切さを教えて頂きました。



＜被爆証言＞

最後に、準備段階からこの祈りの時に心を寄せ、いくつもの教会から「折り鶴」が届けられました。心より感謝いたします。これからも平和のために、様々な方々と心をあわせて取り組んでいきたいと思えます。

(写真の提供：老岐裕志司祭/杉原通彦兄)

□日本聖公会『管区事務所だより』購読料変更予定のお知らせ

日本聖公会の宣教理念と管区・各教区の実践活動、また世界各国の聖公会の動向を毎号の誌面での確にお伝えする広報誌『管区事務所だより』の定期購読料について、通信費・紙代・インク代の値上がりなど、などさまざまな事由のため、2020年より購読料の変更を予定しています。今後の購読料金および振込み等については、管区事務所宛に電話にてお問い合わせください。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。 管区事務所 電話：03-5228-3171

世界宗教者平和会議第10回世界大会に参加して

首座主教 北海道教区主教 ナタナエル 植松 誠

世界宗教者平和会議(WCRP)第10回世界大会は8月20日～23日、ドイツ南部のボーデン湖畔の古都リンダウで開催されました。WCRPはもともと1970年に日本の宗教指導者が「諸宗教間の対話と相互理解から生まれる英知を結集し、平和のための宗教協力を行う」目的で提唱して始まった国際的な団体であり、世界各地にそれぞれの国、または地域の委員会があります。第一回目の世界大会は、その前年のトルコ・イスタンブールでの準備会を経て、1970年10月、京都で開催され、世界の39か国から300人が集まったと記録されています。

私は、以前、大阪教区に在籍していた頃から、当時の木川田一郎首座主教(大阪教区)の随行としてWCRPには関わっていましたが、2006年の首座主教就任と共に、WCRP日本委員会の理事としてこの運動に参画しており、昨年9月からは理事長を拝命しています。

もともとどの宗教も、自らの教えを最高の真理とするために、他宗教との妥協を認めない傾向があり、他宗教との交流や協働も避けてきたように思います。しかし、近代の二度にわたる世界大戦、また驚異的な科学技術の発展、その後も続く軍事衝突や紛争、核兵器使用への脅威、そして世界のグローバル化の中で、人類が平和問題に真剣に取り組まなければならないことは明白です。特に、「いのち」に関わる宗教者、また宗教教団の責任は非常に重いと言えます。WCRP日本委員会には、日本の仏教、神道、新宗教、キリスト教、イスラム教などの諸宗教の教団が加盟しています。それぞれの宗教の教義や信仰は異なりますが、それらの違いは認め合って尊重し、平和のために共通して関わることのできる課題に取り組んできました。私自身、日本にお

ける様々な宗教者と会って話し合う中で、そこから学ぶこと、得ることは大変多く、改めて、日本という社会でキリスト者として生きることに向き合わされています。

前置きが長くなりましたが、以上の背景をご理解いただいた上で、今回の第10回世界大会について報告します。今回、ドイツのリンダウで開催された世界大会には、125か国から900人を超える参加者があり、日本からは正式代表やオブザーバーなど約40人が参加し、その団長を日本委員会理事長である私が務めました。私にとって世界大会は2006年8月、京都で開かれた第8回世界大会以来2回目となるものでした。今までの9回と大きく異なる点は、今回の開催に際してはドイツ政府の全面的な支援があったということです。財政的な援助に加えて、大会運営や内容に関しても、ドイツ政府が準備の段階からかなり関わっていたそうです。それは、ドイツが近年、中東やアフリカなどからの難民をたくさん受け容れ、「自国第一主義」の風潮が高まるEU諸国の中で、また増大する国内での不満もあり、世界的規模の宗教者の英知を必要としていたと思われる。

ドイツ政府も関与して定められた今回の世界大会のテーマは、「慈しみの実践:共通の未来のために～つながりあういのち」というものでした。日本委員会は、この一年間、そのテーマに基づき、日本として、世界大会に提唱するメッセージを考え、事前に大会事務局に送付しました。それは、以下の三つです。

- ①「世界全体が幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」(宮沢賢治のことば)
- ②「危険をおかしてまで武装をするよりも、むしろ平和のために危険をおかすべき」

(庭野日敬・WCRP国際名誉議長 1978年
第1回国連軍縮特別総会より)

③「もったいない」

以上の3点にはそれぞれ詳細な説明文があるのですが、ここでは省略します。また、このメッセージとは別に、日本から15項目にわたる提言もありましたが、これらは日本委員会がここ何年かにわたるタスクフォースでの実際の活動を基盤に、世界に向けたアピールを発表したものでした。それらの中には難民受け入れ、核廃絶に向けての取り組み、ジェンダー主流化、平和と和解の手法の学び、などもあります。

大会では、全体集会、分科会など豊富な人材による講演、パネルディスカッション、協議が精力的に行われました。その結果として、最終日に大会宣言文が採択されました。その最後には共通の行動への呼びかけが9項目掲げられていますが、その内の8項目に、日本委員会から提唱したメッセージや提言が盛り込まれているように思いました。この大会を通して印象的だったのは、

女性の存在と働きにライトが当てられ、参加者の共感を集めたことでした。また、喫緊の最重要課題として、地球温暖化への対策と行動に、全世界の宗教者たちが取り組もうということでした。

私は気候変動の分科会で、福島原発事故について話し、原発の危険性を訴えましたが、世界の関心としては、この問題はまだまだ理解されていないという思いを強く持ちました。

また、これまで25年にわたって事務総長を務められたウイリアム・ベンドレイ博士(アメリカ・キリスト教)から、新たに、アッサ・カラム氏(エジプト生まれ、オランダ国籍・イスラム教・女性)に事務総長の大役が引き継がれたことも、今回の世界大会のハイライトでした。

WCRP日本委員会としては、この世界大会宣言文をどのように実践に移していくかを今後検討していきます。世界宗教者平和会議(WCRP)日本委員会に関心を持っていただき、皆様のご理解とご支援をいただけましたら幸いです。

(インターネット wcrpでご検索ください)

「世界改革派—世界聖公会国際対話」(IRAD) 広島会議の報告

立教大学 文学部長・文学研究科委員長

立教学院 副院長 キリスト教学校教育同盟 理事長

中部教区 司祭 アシジのフランシス 西原廉太

「世界改革派—世界聖公会国際対話」(International Reformed-Anglican Dialogue: IRAD)の第5回目となる国際委員会が、8月23日から30日まで、日本・広島で開催された。この対話は、世界聖公会(アングリカン・コミュニオン)、世界改革派共同体(World Communion of Reformed Churches: WCRC)、それぞれから各6名の委員が世界各地から選ばれ、国際対話を継続してきたもので、筆者はアングリカン・コミュニオン側委員としてカンタベリー大主教から派遣されている。共同議長は、聖公会側が、ハ

ワード・グレゴリー(The Most Revd. Howard Gregory)西インド諸島管区大主教、改革派側は、エリザベス・ウェルチ(The Revd. Elizabeth Welch)英国合同改革派教会前議長である。WCRCの日本における加盟教会は、日本キリスト教会、在日大韓基督教会である。

世界改革派とアングリカン・コミュニオンの教会間対話は、1984年に『神の国と私たちの一致』(God's Reign and Our Unity)と題された共同報告書を公表して以来、途絶えていたが、新たにIRADが設置され、2015年に最初のIRAD会議

を南インドのコチで開催した。最初のIRAD開催地に南インドが選ばれたのは、南インド教会(The Church of South India)が、WCRC、アングリカン・コミュニオンの双方にフルメンバーとして属しているからであった。以来、2016年に、英国・ケンブリッジ、2017年、南アフリカ・ダーバン、2018年、カナダ・ヴァンクーバーで行ない、そして最後のIRAD委員会は、日本・広島で行なわれることとなったのである。報告書『神の国と私たちの一致』は、1982年に世界教会協議会(WCC)信仰職制委員会が出した、エキュメニズムにおける最重要文書である『リマ文書』(Baptism, Eucharist, and Ministry: BEM)の発展形でもあり、信仰職制レベルの諸事項についての大切な確認が提示されたものの、その後、両共同体間で具体的な対話の進展を得ることができなかったことの反省を踏まえて、IRADにおいては、よりそれぞれの日常的な教会の宣教につながることを意識しつつ、「コイノニア」(交わり)をキーワードとして、議論を積み重ねてきた。

毎回、IRADでは、正式な委員に加えて、開催国からローカル・オブザーバーを招く習慣があり、今回のIRAD広島会議には、日本聖公会から市原信太郎司祭が派遣された。また、ローカル・アシスタントとして日本聖公会神戸教区の浜井美喜さんにご協力いただいた。市原司祭と浜井さんは獅子奮迅の大活躍で、IRAD広島会議は、お二人の献身的なホスピタリティなしには決して実現することはできなかった。また、日本聖公会管区の植松誠首座主教、矢萩新一管区総主事、小林尚明神戸教区主教、広島復活教会の長田吉史司祭、永野拓也執事の多大なるご協力にも心からの感謝を申し上げたい。8月25日の主日には、広島復活教会にて、英国教会ウェストミンスター・アビーの参事神学者である、ジェームズ・ハウキー (James Hawkey) 司祭の説教、ハワード・グレゴリー大主教の祝福で、広島復活教会の信徒のみなさんと、豊かな聖餐の交わりを持つことができた。

IRADは毎年、基本的には、約1週間、ホテルの会議室に缶詰で、90分のセッションが約20回続くのであるが、今回はとりわけ最後の全体

会議ということもあり、最終報告の作成に向けて、細かな議論に集中した。中でも、参加者は、広島平和記念資料館、平和公園を訪問し、人類最初の原子爆弾が投下された地である「ヒロシマ」-Hiroshima-に、今、在ることの意味を深く黙想することとなった。

中でも、今回のIRAD広島会議における最大のハイライトは、被爆者である小倉桂子さんの証言を、参加者全員が生で聴いたことであった。小倉桂子さんは現在82歳。8歳の時に、爆心地より2.4キロの広島市牟田町で被爆。小倉さんは、英語で、ご自身の壮絶なる体験を、しかし、静かに深く語ってくださった。参加者はみな涙を抑えられず、衝撃で言葉を失っていた。

今回、まとめられたIRAD最終報告書は、さらなる調整を経た上で、来年、全世界に公表されることとなっている。「コイノニア」をめぐる基礎的な共通理解を、聖書、神学、歴史の側面から解明し、さらには、それがいかんにして両教会の教会論、宣教論に反映することができ、私たちが日常において「コイノニア」に生きることができると提示するものとなる。私たちがこの5年間に世界各地で経験し、聴いた大切な物語の数々も紹介される。

IRAD最終報告書のタイトルは、『コイノニア：神からの賜物、神からの招きー広島レポート』(Koinonia: God's Gift and Calling - The Hiroshima Report-)と銘打たれる。

ぜひ、私たち、日本聖公会においても、積極的に共有していきたい。



Atomic Dome group 集合写真

■ PJP青年プログラム

正義と平和の巡礼プログラムに参加して 一報告と感想一

中部教区 岡谷聖バルナバ教会 アンデレ川島創士

2019年8月6日(火)から12日(月)まで、韓国・ソウルにおいて、NCKK(韓国キリスト教協議会)とEYCK(韓国キリスト教青年協議会)がWCC(世界教会協議会)とともに共催した青年プログラム「正義と平和の巡礼(The Pilgrimage of Justice and Peace:PJP)」が開催されました。私は、日本聖公会からそのプログラムに参加させて頂きました。本稿ではプログラムの内容を簡単に報告させて頂き、全体を通しての感想を分かち合えればと思います。

プログラムの主な内容は、プログラム名の通り「巡礼」です。朝鮮半島で起こった様々な惨事の現場を実際に訪れました。実際の現場に行き感じたことは、歴史の教科書で勉強したはずの事なのに、そのことについて何も知らない自分がいた、ということです。これは全プログラムを通して常に感じさせられたことでした。「巡礼」の他には、各国の平和問題についてシェアするワークショップなどがありました。今回は主に「巡礼」のを中心にご報告させて頂きます。

私たちが行った最初の巡礼地は、「光州事件」の現場でした。光州事件は1980年5月18日から27日にかけて光州市で起こった民衆の蜂起運動です。研修センターで当時の映像を交えたレクチャーを受けた後、実際の現場に行きました。研修センターには資料館も隣接されており、惨事に関する当時の生々しい資料が展示されていました。翌日には車で少し移動して山林近くにある「国立5.18民主墓地」を訪れました。光州事件で亡くなられた故人を覚えて参加者全員で献花をお捧げしました。その際、数カ所の墓地の前で現地の案内の方が、そのお墓に眠る故人の生前の話をお聞かせ下さいました。私たちと何一つ変わらない一般人が、その「いのち」を奪

われたのでした。正義のために武器を取り、亡くなっていった学生運動のメンバーは私と同じ世代の人たちばかりです。改めて、「いのち」とは何か。「正義」とは何かを考えさせられました。

次に私たちが訪れた巡礼地は、「ノグンリ事件」の現場です。ノグンリ事件は、1950年7月に起きた米兵による朝鮮民間人無差別虐殺事件です。同日に事前レクチャーを受けていたので、当時のことを想像しながら実際の場所に行きました。現在まで残る当時の銃痕の生々しさが、事件の悲惨な状況を物語っていました。無差別殺戮で「いのち」を奪われたことの現実が、私たち参加者の涙を誘わずにはいませんでした。何よりも尊いはずの「いのち」とそのかけがえの無さは、いとも簡単に踏みじられた歴史の事実に向き合った時、必ずしも当たり前とは言えなかった現実があったのだと改めて感じざるを得ませんでした。事件の記念碑の前に参加者で献花をお捧げしました。照りつける暑さの中、参加者で祈る最中に感じたものは深い沈黙でした。皆が平和とは何か、「いのち」の尊さと歴史の現実についてしっかりと目を向けることができた時だったと思います。



「ノグンリ事件」の現場

次に私たちは軍事境界線 (DMZ) を訪れました。道中の通行にはパスポートが必要で、その確認のために銃を持った軍人がバスの中に乗車してきた時の緊張感は忘れることができません。38度線近くには常に、銃を持った兵士が警備していました。ガイドさんのお話によると、彼らの多くが20代前半だそうです。同世代の青年が、銃を持ち警戒している様子に異様な雰囲気を感じました。昨今の情勢が複雑なだけに、一層緊迫した空気が全体を通して感じられました。38度線近くを照りつける暑さの中散策しました。汗だくになりながら感じたのは、自然が豊かだったということです。近くに流れる川や池はととても透き通った水が流れていました。そのすぐ目と鼻の先で、銃を構えあった状況があるとは想像もできないほどに綺麗な光景であったのを思い出します。

私は初めて国際プログラムに参加しました。世界中の同世代の仲間と手を握り、祈った時間は忘れられません。特に最終日、超教派で行なった聖餐式は忘れられません。「平和」とは何かという問いに対する答えはまだ模索中ですが、これから生きていく私たちが過去と向き合うことの中で、確かにしていくことが大事だと思われました。最終日ホテルで、無言で韓国の青年と泣いて抱き合った経験は一生の宝物です。

□「PJP」青年プログラムに参加して

韓国での学びと出会い

東京教区 聖パトリック教会
ラファエラ 木枝 萌

主の平和

それから、イエスは彼らにこう言われた。「全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい。…」

—マルコによる福音書 16:15

伝道者が、イエス・キリストの教えを伝え、世界に広めたように、私ができることは学習したことを周りの人と共有し、考えるきっかけを作ることです。そのような地道な努力が、平和を広めるために必要なのだと思います。

8月6日から12日に、韓国のソウルにて行なわれた「Pilgrimage of Justice and Peace」(正義と平和の巡礼)に聖公会の一人として、参加してきました。このプログラムは、エキュメニカル組織であるWorld Council of Churchesが主催し、世界各国から約80人の18歳から35歳までの青年が集まりました。

私たちは、この1週間のプログラムを通し、平和学習のために様々な場所を訪れ、また平和や社会問題に関する講義を受けました。

その中で特に心に残っている場所と講義をご紹介します。

貴重な学びの体験

印象に残っている場所は、Paju DMZ (坡州市)です。板門店のある軍事境界線 (38度線) を隔てて北朝鮮と接する最前線で、市域に非武装地帯がある唯一の市です。一旦この非武装地帯に入ると、撮影許可は下りませんでした。フェンス越しに見える景色は、いたって普通の穏やかな田舎風景でした。40度の炎天下の中フェンス沿いに3キロ (境界線はもっと長いです) 歩いた後、バスに乗り山頂まで行きました。そこでは北朝鮮を一望できます。遠くに見える、ビルや北朝鮮の旗、山々は、韓国の景色と左程違いはありませんでした。景色を眺めながら、いつか国境を越え、フェンスの向こう側の若者と交流する日がくることを心から願いました。

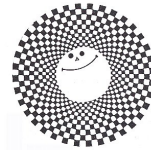
そして、興味深かったのは、Civilian Massacre and Christianityというテーマの講義です。朝鮮戦争時代、アメリカは、ソビエト連邦や朝鮮の影響で、韓国が共産主義国にならないか危惧していたそうです。そのため、アメリカ側は、韓国の政府に共産主義者とみなされるものを殺すように指示しました。この時、韓国の権力者はキリスト教的思考からこの虐殺を正当化しま

した。北側の共産主義はSatan(悪魔)であるから、世界から一掃するべきだという考え方をしていたそうです。キリスト教の信仰がこのような無残な虐殺を引き起こした歴史があることを、講義を通じて初めて知りました。これは、神様が望んでいたことでは絶対にありません。私は、クリスチャンとしてこの痛ましい歴史を受け止め、同じことを繰り返さないために、共に学び、後世に伝えていくべきだと考えます。

このように1週間という長い期間で、今まで知らなかった韓国の歴史について勉強し、そして実際に戦場になった場所に行き、辛い過去を肌で感じる事ができたのは、本当に貴重な体験でした。それだけでなく、プログラムの中で、世界各国の若者と真剣に議論し合った時間は、私を成長させてくれました。知識豊富な若者が、自分の意見をしっかりと述べる姿に感銘を受けました。そんな彼らの行動と発言は、未来の希望と大きな力になると感じました。尊敬できる仲間ができて、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

今回このようなエキュメニカル組織が主催するプログラムに参加し、初めて聖公会以外の教派の方々と出会うことができました。キリスト教についてオープンに話す機会が日本ではなかなかないので、とても新鮮でした。また、世界中の参加者が、日本の教会や日本人の宗教観に興味を持ってくれたことには大変驚きました。勉強不足のため、質問に答えられないことが多々ありましたが、それをきっかけに自分の教会、宗教観を考えるようになりました。

この夏、自分自身が成長できたのも、教会の皆様のサポートのお陰です。この経験は、神様からの贈り物として、一生大切にしていきたいと思えます。本当にありがとうございました。



管区事務所
〒162-0805
東京都新宿区矢来町65番
電話 (03)5228-3171
FAX (03)5228-3175

日本聖公会

NIPPON SEI KO KAI

PROVINCIAL OFFICE
65, Yarai-cho, Shinjuku-ku
Tokyo 162-0805, Japan
Tel. 81-3-5228-3171
Fax. 81-3-5228-3175

2019年8月2日

死刑執行抗議

内閣総理大臣 安倍晋三様
法務大臣 山下貴司様

2019年8月2日、庄子幸一さん（東京拘置所）と鈴木泰徳さん（福岡拘置所）に死刑が執行され、尊い2人の生命と償いへの道が断たれたことに対し、強い落胆と憤りを持って抗議致します。

私たちは、キリスト教の信仰に立って、神によって創造された全ての生命とその尊厳を守るため死刑制度の廃止を願い、これ迄歴代の法務大臣に死刑制度に関する議論を尽くすよう要請すると共に、法改正が成される迄、死刑の執行を停止するよう強く求めて参りました。

死刑は、国家による究極的な暴力です。人為的に人の生命を奪う権利は、国家にも誰にもありません。相次ぐ処刑は、2008年に国連規約人権委員会が日本政府に対して出した「国内の世論調査に関係なく死刑制度の廃止を検討すべき」との勧告を無視するものであり、日本の人権に対する後進性を現すものです。

死刑制度の廃止が国際的な流れであり、廃止国が存置国を上回っている中、存置の理由の一つとされる犯罪抑止力にならないことは統計上も明白です。

近年、手軽にできる SNS 等への投稿内容を見ますと、死刑執行に私たち一人ひとりが関わっていることを全く意識することなく、また、処刑の責務を果たさざるを得ない刑務官の苦悩を顧みることなく、まるで他人事のように処刑による殺人を容認する、或は積極的に賛同する内容が目立ちます。これは、私たちが死刑制度に関する十分な情報を得ることができないこと、また、深く議論する場がないことの一つの表れです。悲惨な事件がこれ以上繰り返されないため、生命の尊厳を重んじる心を育てる教育こそが、緊急の課題です。

死刑制度廃止に向けて冷静な議論を尽くし、一日も早い廃止に向けた法整備を進めるよう、強く要望すると同時に、これ以上死刑執行をしないよう、強く要請致します。

人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の命を失ったら、何の得があろうか。
自分の命を買い戻すのに、どんな代価を支払えようか。（聖書）

日本聖公会・正義と平和委員会
委員長 主教 上原榮正

管区事務所
〒162-0805
東京都新宿区矢来町65番
電話 (03)5228-3171
FAX (03)5228-3175

日本聖公会

NIPPON SEI KO KAI

PROVINCIAL OFFICE
65, Yarai-cho, Shinjuku-ku
Tokyo 162-0805, Japan
Tel. 81-3-5228-3171
Fax. 81-3-5228-3175

2019年「8・15日韓聖公会共同宣言」

— 「キリストの平和」を作り出す北東アジアのクリスチャンとして —

「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。」（マタイ5：9）

主にある兄弟姉妹の皆さま

今年の8月15日は、第二次世界大戦が終わって74周年になる年です。日本はこの日を敗戦によって終息した日として覚え、平和憲法を制定して再び軍国主義の誘惑に陥らないように努力し、韓国は失った国を取り戻した日として記念し、朝鮮半島の平和のために努力していません。

韓国と日本の聖公会は、過去35年間にわたる交流プログラムを通して、過去の戦争と日本による植民地支配について学びを深めながら、今も続くその痛みや悲しみ、また怒りと不信をどのように癒し、乗り越えるかについても話し合ってきました。そして、朝鮮半島の平和と相互協力、ひいては東アジアの平和な未来を目指して協働しています。特に、日韓両聖公会の青年たちは、25年にわたる交流によって、偏見の克服や文化の相互理解に努め、真の友情関係を築いてきましたし、多くの大韓聖公会出身の教役者たちが日本聖公会の中での宣教牧会に携わってくださっています。

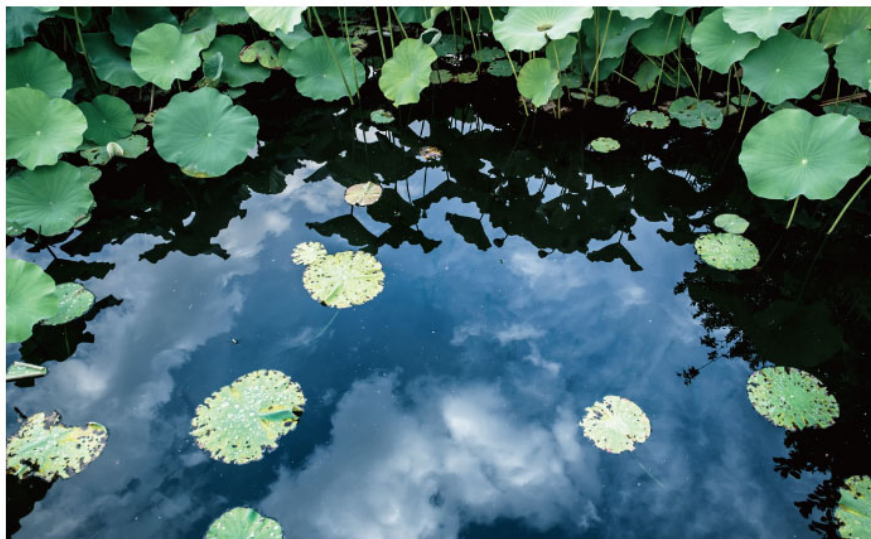
しかし、これまでも、私たち両聖公会の築き上げてきた信頼関係や交流に水を差すようないろいろな問題が、両国間に起きてきたことも事実です。その多くは、両国政府の政治、経済、防衛などに関する政策に端を発していますが、最近も対韓輸出規制問題から、両国間の緊張が高まって、両国間の親善や民間交流にも大きな影響を与えています。

日韓の関係の悪化は、朝鮮半島をはじめとする東北アジア、そして全世界に大きな悲しみをもたらすこととなります。私たちは、正しい歴史認識に立つリーダーシップと国際関係が保たれることを願い求めます。

私たち日韓聖公会は、今までもこのような事態の中で、相互信頼に立脚しながら、平和の福音を宣教するために交流を着実に続けてきました。「8・15」74周年を記念して、キリストの平和を作り出す日韓聖公会は、主から与えられた和解の務めを果たすために、祈り、連帯し、主から与えられた平和の使命をこれからも誠実に果たしていくことを約束します。

2019年 8月15日

大韓聖公会議長主教	モーセ	ユナクジョン 楽 濬
日本聖公会首座主教	ナタナエル	植松 誠



社会事業の日
2019年10月27日

なんてん共働サービスのため

(滋賀県湖南市)

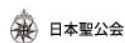
「共に働き、共に暮らす、支え合いの社会を！」をスローガンに、障がいがあっても、認知症になっても、普通に働き普通に暮らせる共生型の社会を目指しています。認知症や障がいを抱えるおとしよりが、最後まで住み慣れた所で暮らし続けられるよう支えています。

九十九里ホーム関連施設のため

(千葉県匝瑳市)

九十九里ホームは病院を中核に老人介護、障がい者、こどもを対象とした総合的な福祉事業を千葉県匝瑳市を中心に展開しています。2019年9月に上陸した台風15号の影響で、外構や設備損壊など多くの被害が発生しており、復旧のための支援を必要とされています。

「今起きている人々は、幸いである、あなたがたは満たされる。今泣いている人々は、幸いである、あなたがたは笑うことになる。」(ルカ6:21)



名古屋柳城女子大学

2020年4月 開学

こども学部こども学科 (定員70名)

「こどもの未来、わたしの未来、つながる未来。」



120年を超える保育者養成の歴史を持つ柳城が新たな保育者養成をスタートします。

子どもと共に笑い、泣き、喜び、一人ひとりの心に寄り添い、一緒に成長することができる保育者を養成します。

<キリスト教会推薦入学試験>

日本聖公会を含むキリスト教協議会(NCC-J)加盟の教会またはカトリック中央協議会の教会の信徒並びにその子弟で、本学の教育方針を理解し、本科への進学を強く希望する人のための入試です。

- ◎将来、保育士・幼稚園教諭を志す強い意志と熱意を持つ者で、本学の建学の精神に賛同する者。
 - ◎高校3年生1学期までの全体の評定平均値が3.0以上のもので、高校を卒業見込みの者もしくは卒業した者。
- この入試で合格した者は、入学金を免除します。

入学試験の詳細は、入試広報課(052-848-8281直通)までお問い合わせください。

日本聖公会管区事務所ホームページ <http://www.nskk.org/province/>

☆「管区事務所だより」についての要望・寄稿などをメール、また郵便でお寄せください。